



# 亀中だより

No.32 令和4年11月25日 文責：岡田



For The Students!

## いじめ防止！ピンクシャツ運動 in 亀中

三重県いじめ防止条例では、4月と11月を「いじめ防止強化月間」と定め、学校、家庭、地域が相互に協力しながら、いじめ防止、早期発見・早期対応をめざした取組を推進しています。本校でも、学校として、生徒会として、毎年取り組みを行ってきています。今年度は各学年評議会が中心となって、ピンクシャツ運動にちなんで、ピンクのシャツをかたどったカードに一人ひとりがいじめ防止のメッセージを書きました。「願い」が「行動力」となって、いじめ防止へとつながってほしいと思います。

亀山中学校では、「いじめ防止基本方針」を策定し、これに基づいて取り組みを行っています。学校のでいじめ防止の取組として、定期的なアンケート調査や個人面談、スクールカウンセラーなどによる相談体制の充実、道徳教育・人権教育の充実、子ども支援グループや警察・児童相談所との連携などがあります。しかしながら、SNSを介したいじめ事案に見られるように、いじめの構造はどんどん複雑化、不透明化してきています。生徒、保護者のみなさんも、心配事などがありましたら、いつでも学校までご相談ください。

なお、ピンクシャツ運動の由来については次頁に記載いたしました。ご一読ください。

3年生

ピンクシャツ  
メッセージ



# ピンクシャツ運動の始まり

それは、カナダの学生が起こした行動に由来します。

舞台は2007年、カナダ・ノバスコシア州のハイスクールです。9年生（中学3年生）の男子生徒がピンク色のポロシャツを着て登校したことをきっかけに、ホモセクシャルだとからかわれ、暴行を受け、たえきれずに帰宅してしまいました。その出来事を聞いた上級生のデイヴィッド氏とトラヴィス氏。12年生（高校3年生）の彼らにとっては、その学校で過ごす最後の年でした。

「いじめなんて、もう、うんざりだ!」「アクションを起こそう!」

そう思ったふたりは、その日の放課後、ディスカウントストアへ行き75枚(\*)のピンク色のシャツやタンクトップを買いこみました。そしてその夜、学校のBBS掲示板やメール等を通じてクラスメートたちに呼びかけました。

「明日、一緒に学校でピンクシャツを着よう」と。

翌朝、ふたりはピンク色のシャツやタンクトップを入れたビニール袋を手に登校しました。学校について校門で配りはじめようとしたふたりの目に映った光景・・・

それはピンクシャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。ピンクシャツが用意できなかった生徒たちは、リストバンドやリボンなど、ピンク色の小物を身につけて登校してきました。頭から爪先まで、全身にピンク色をまとった生徒もいました。

ふたりの意思は一夜のうちに広まっていたのです。

ふたりが呼びかけた人数より遥か多く、数百人もの生徒たちがピンクシャツやピンク色のものを身につけて登校してきたことで、その日、学校中がピンク色に染まりました。いじめられた生徒は、ピンク色を身につけた生徒たちであふれる学校の様子を見て、肩の荷がおりたような安堵の表情を浮かべていたそうです。以来、その学校でいじめを聞くことはなくなりました。

いじめに対して、学生たちは言葉や暴力ではなく行動で意思表示をしようと立ち上がったのでした。

カナダの学生たちが起こした行動が地元メディアで取り上げられると、瞬く間にカナダ全土へと広がり、アメリカのトークショーやスペイン最大の新聞でも紹介されるなど世界へと広がっていきました。メディアで彼らのことが紹介された翌日には、アメリカ、イギリス、ノルウェー、スイスから彼らの元へ多数の賞賛や感謝を伝えるメールが届いたといい、大きな反響が伺えます。この行動がきっかけとなり、現在、カナダでは毎年2月最終水曜をピンクシャツデーとし、この日、学校・企業・個人を含めた賛同者がピンクシャツを着て「いじめ反対」のメッセージを送っています。